

日時	令和2年12月13日(日曜日) (14:05) ~ (16:30)
場所	大庄北生涯学習プラザ3階ホール
資料	<p>「大庄西中跡地における公園」※欠席者提出資料 「第6回大庄《未来につなぐ》まちづくりワークショップ レジюме」 「大庄西中学校跡地における新しい公園を考える」 「(福岡市) コミュニティパーク事業の概要」 「跡地活用に係る前提条件」 「(仮称) 大庄ふれあい体育館の整備について」 「大庄体育館における事業実施等」 「令和2年度 千代木園 実施事業」 「大庄体育館 図面」 「千代木園 図面」 「大庄《未来につなぐ》まちづくりワークショップの運営スケジュール」 「第5回大庄《未来につなぐ》まちづくりワークショップ 会議記録」</p>
内容	<p>1 第5回ワークショップの振り返りについて 第5回ワークショップの質疑に対して事務局から回答</p> <p>・協議事項 ・決定事項 ・連絡事項 など</p> <p>前回、一般的な公園、協働型の公園、コミュニティースペース（以下、「CS」とする）など管理運営について議論をしてもらったが、公園の面積をはっきりさせないと議論が深められないといった意見が多かった。それを受けて庁内で協議したので、次の前提条件で議論を進めてもらいたい。</p> <p>(公園)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南ノ口公園を大庄西中跡地に振り替えるので、新たに整備する公園は南ノ口公園の面積約7,800㎡以上を確保しなければならない。 ・7,800㎡に一定面積を加えた10,000㎡程度を限度とする。 <p>((仮称) 健康ふれあい体育館)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約2,000㎡の用地を確保する。 <p>(定住・転入促進、及びコミュニティースペース)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定住・転入促進に繋がる住宅開発用地として約4,500㎡を確保する。 ・ただし、ワークショップ（以下、「WS」とする）での参加者からの反対意見を踏まえ、CSをやっていくと地域の意見がまとまった場合、すぐには住宅開発用地として売却せず、CS用地としての活用も選択肢として考える。 ・ただし、法令上の公園にしてしまうと簡単に廃止ができないので、公園の選択肢はない。 ・誤解がないように繰り返すが、WSの意見を踏まえてCSも選択肢として示したが、市としては、定住転入に繋がる住宅開発が必要ということに変わりはない。 <p>参加者:公園については7,800㎡から10,000㎡の間で考えるのか、10,000㎡として考えるのか。運動グラウンドのことなども考えて公園とCSの割り振りの幅をもたせて議論していいのか。</p> <p>市 : 現在の南ノ口公園の7,800㎡より区域を大きくした10,000㎡で考えたいというのが市の考え方である。10,000㎡は規模が大きいため、その範囲で運動グラウンドや遊具、樹木を整備していく。</p> <p>参加者:前回までの話では全体的に16,500㎡という話だった。市で議論した結果、10,000㎡に確定した。4,500㎡についてはCSなら売らないが、CSが不可能なら予定どおり住宅開発する。16,500㎡を公園として整備することについては考えていないという市の判断。市の考え方が鮮明になってきたが、少し一方的ではないか。今まで議論してきた中で、結論に近いから、なんでそのようになったのかももう少し説明してほしい。</p>

市 : 以前からずっと繰り返している説明だが、市としては大庄地区の人口減少は課題だと認識している。ただ、WSでの住宅開発反対という意見も踏まえて庁内で協議し、CSとして使いたいという地域のみなさんの声がまとまれば、住宅開発はすぐには行わず、CSとして活用することも選択肢として考えているということである。ただし、定住転入が必要という市の考えに変わりはない。

参加者: 上限が 10,000 m²で大丈夫か。最低 7,800 m²からスタートし、あとはCSとの取り合いになると思う。住宅開発についてはCSを地域が運営できれば強硬はしないということ。つまり地域の覚悟を聞かれている。ただ、その前に、人口減少について、そもそも、どれくらいの人口が一番望ましいのか、どこの数字を前提にするかで基準は変わってくる。日本の中では人口密度は高い。どれくらいの人口に対してどれくらいの公共施設でバランスがとれるのかという前提がなく、人口が減るといだけの議論が馴染むのか。また、老朽家屋含めて空き家が結構ある。空き家がない、人口が増えない、だから住宅を建てるということなら理解できる。当然そこは分析しているのか。

市 : 大庄地区の理想の人口の数字は持っていないが、他地区と比べて減少率が著しく大きいというのが市の認識である。前回の繰り返しになるが、空き家対策、住宅開発のどちらに軸足を置くというのではなく、どちらの対策も市としては必要と考えている。

参加者: もともと大庄地域の南部で神戸製鋼があった時は 10 万人くらい。あの当時は 55 万人が尼崎市の人口だった。神戸製鋼が引き上げたから一挙に人口が減った。そこからそんなに人が減っているようには感じない。尼崎市全体をみても言われる程人口は減っていない。過去の工業地帯としての大庄地域の繁栄が尼崎の繁栄に結び付いた。今となってこういう話をされるのは心外である。何が言いたいかというと、会議をしていくなかでどんどん土地を縮小されているような感じで、我々が一生懸命努力して話していることが逆手にとられている。表向きはみなさんの声だからこう考えます。無理ならば市の判断で考えますという 2 面性がある。今まで一生懸命話してきたことが虚しく感じる。この 10,000 m²が限定的な形になってしまうと色々頑張ってきたことが、信頼関係が、どういうことなのかと感じる。

市 : 色々な思いはあると思うが、地域の中でどのようなまちづくりがいいのか、どうしたら魅力が高まるのか。市としての考えも勿論あるが、地域のみなさん自身で考えてほしい。

参加者: そうではない。前回 WS で、我々は色々議論するが最終的には WS ではなく市が決めると言っていた。最終的に我々の意見がどう反映されるのかが非常に、前回の言葉は心に残っている。

2 ワークショップ形式による各メンバーの意見

(1) 新たな公園整備について (一人ずつ発言)

市 : 今日欠席の参加者から FAX で意見を頂いた。南ノ口公園を移転した新たな公園をイメージした部分として一般的な公園、それ以外のところが協働公園もしくはCSということが書かれている。利用方法については一般公園を憩いの場、協働公園、CSはイベント等で、また、災害時の利用についても書かれている。一般公園や協働公園の継続ができなくなった際は、その時点で協議が必要という意見である。

参加者意見①

- ・協働公園やCSを長い年月やり続けることが可能かどうか。CSをやるなら強い思いや覚悟がなくては続かない。続けられなければ売却になるという覚悟が必要。
- ・担い手はいるのか、育てられるのか、ということ考えた上でやらなくてはならない。
- ・私が元気なうちはやれるが、CSも協働型の公園も複合施設も、若者たちが担っていきたいと思える場所であつたらうれしいと思う。

参加者意見②

- ・住宅として売却するよりはCSにしたほうがいい。
- ・手弁当では無理というレベルになると、例えばBBQをするなら使用料をとって、年間何件利用があつて、どれくらいの収益が上がるのか、給料を払っていいのか、採算がとれるのかということ。
- ・お金が取れない状態では行政に支援してもらわなくてはならないが、行政も財政状況によっては払い続けられない、削減しなくてはならないということがでてくると自立が難しい。
- ・CSに管理センター含めて小さなハコモノを建てるつもりはあるのか、市はどれくらい財政支援できるのか、その前提条件ないと議論しようもないし、それによってやれることが変わってくる。そのあたりが見えないと持って帰りようがない。
- ・何をするかでどれくらいの収益があがるのかシミュレーションができる。その次に社協を含めて誰がそれを回すのということになる。運営体制も含め話し合っていく必要がある。
- ・支部の一員としてここに来ているので、支部に持ち帰って協議しなくてはならない。大庄の各地域の会長も含めて納得したうえで残すという意思決定をしたらかたちになるのかと思う。

市 : (おもしろ広場代表に向けて) 10年間おもしろ広場をやってきたなかで、どういったことが必要でどんなことを決めていかななくてはならないかを皆さんに教えてほしい。

参加者: まず、市民が市に対して要求型になってしまう部分をどうやってまとめるかを考えるとこの10年間はかなりうまくいった。スタート直後は苦情を相当言われたが、協力する仲間、人間関係をつくっていった。そういうことができる可能性が大庄地区にはある。お金に関しては、ない前提で動いてきた。お金がないから市も動いてくれる。お金がないからできないではなく、お金がないから可能性がある。お金がないなかで色々できる可能性ははっきり見えた。前回、市から土地を売却収入がなければ立派なものとはできないと説明があつた。しかし、お金がなくても大庄が誇りに思えるものを作るベースはあると10年間を通じて感じた。ただし、若者たちが手弁当でというのは無理。核になる人が必要。熱があるうちはいいが、続けるというのは核になる人が半分くらい生業、収入を得られるソーシャルビジネスのような形が必要。お金を生み出す仕組み、発想を取り入れていくことが必要。お金の為ではなく、地域でこれが必要、これがやりたいということをお金に繋げる。

参加者意見③

- ・今までの行政の概念では難しい。行政側が考え方、やり方を変えないといけない。
- ・CSに建物を建てるというのは、公園を作るなかでは無理だと思う。ただ、お金を稼ぐ仕組みが必要ならば、最終的に今のままおもしろ広場を残すのが一番だと思う。その上で、整備に使う予定のお金を運営費としてくださいというのが一番いい。
- ・ここで若い人達は何がやりたいですか、自由に使ってくださいと役所側が提案して、大庄の人や尼崎の人でなくてもいい、西宮の人でもいいので、逆転の発想というか、ここで何か、使ってみようという。担い手がいないとかNPOがないとかそういう話ではなく。そういうことができればいい。

参加者意見④

- ・始めるのは簡単だが、続けていくのは難しいので不用意に始めるわけにはいかない。
- ・より自由度が高い、制限が少ないというのは考え方としては素晴らしいが、維持していくのは難しい。
- ・自分の時間を割いてまでやる動機は、地域を良くする為、子孫までいい環境で暮らしてほしいという思いであり、やっている人はそういう思いなのだと思う。ただ、若い世代ではそうでない人の方が多い。
- ・CSを作りました、暫くして後進が育たなくなりできませんとなった、じゃあ売ります、となっても若い世代はあそこを売るらしいくらいにしか思わない。
- ・ここで尽力される方にとっては、将来、あの時こうしたからだとする可能性がある。ただ、その時には当事者は亡くなっているかもしれない。ならば 50 年後の人達がより良く使えるものにするのか。今生きている人達がより良く使えるものにするのか、まずどっちかに標準を絞り込まないと話は進まない。
- ・ここにしがらみがない人は、14,500 m²を協働公園にし、力尽きたら一般的な公園にすればいいと思うだろう。
- ・おもしろ広場をしている人達は歴史があるから使えるスペースが絶対必要。そこに息づいた人達がいるから。
- ・どこを大事にしたいのかが見えていないのかなと思う。
- ・大庄の 50 年後、100 年後を考えている一般の大庄の市民は何人いるのか。その人達が将来この CS を運営していけるのかという非常に難しい。
- ・ただ、もっと若い子を取り入れる環境は作らなくてはならないなと思う。20 歳の人町会長になってもいいと思うが、地域のことを知らないののでできないだろうとなっている。知ることができる環境になれば CS は進んでいくのではないかな。

参加者意見⑤

- ・大庄の南部は元浜緑地など大きな避難場所があり、北部には建物がたくさんある。この中部地域は非常に危険だと感じている。車が入れる高台にするべき。
- ・公園を自立化させるという話をしているが、連協会長、町会長をやってきた立場としては、我々では全部できない。
- ・実際は定年になった人しかできない。
- ・財源がないので市が力を入れながら進めなければならない。環境整備、よりどころは市でなくてはならない。
- ・CS については何も建てないし更地を渡すから勝手に運営してください、ダメだったら住宅開発しますと言われていた。福岡以上に市が踏み込まなければ難しい。
- ・全体的に道が狭い。道を整備しないで中だけやっても、そういうことも考えて、住宅地を作っても駅も遠いし誰が住むのかと思う。もう少しインフラを考えてほしい。

参加者：市の整理してきた方向性としては、CS にしなければ住宅開発の方向ですとなっているが、地域としては土地の売却が望ましくないというのが総意だと思う。この WS では CS という方向性で整理されることになると思うので、市が方向性を決めたときに、じゃあどうしますかと期限を切って聞かれると思う。使い方を議論していかないと、一定期間のなかで決まらなければ売却しますよとなると思う。4,500 m²という大きさなのか、例えば公園の 10,000 m²を 9,500 m²にして CS を 5,000 m²にするとか、そこは協議できると思う。CS の部分を使って、地域としてコミュニティービジネスなのか何かの事業を生むことができるのかをみんなで考えて、収益性、継続性ができれば、やっていけばいいと思う。しかし、日々の管理をどうするのか。我々だけでできるのかが問われてくるのかと思う。色々な人の知恵を借りて、モヤモヤも残るが残す方向で進めるしかないと思う。

参加者：市の協働型委託事業で環境オープンカレッジを運営している。市が主体でなく、NPO が主体でもなく、一緒に色々なことができていく。福岡の協働型の公園は責任の所在が曖昧で、自分から動く市民が育っていくという形ではなく、都合のいいところだけをするようになる。やるならば、市民と行政が対等に組めることが

必要。蓋を開けてみれば責任の擦り付け合いになりえる。福岡型のように近隣の町内会の総意がなければ動けないという形をとると、世代間の違いが出てくる。そういう時にどうやって誰が調整するのか。核になる人を育てる必要がある。ソーシャルビジネス的に育つ状況をつくれればできるのではないか。

市 : 協働公園、CS を議論していく、可能性を探っていくというところはみなさんの意見かと思う。

参加者 : CS は住民の意見がまとまればと書いてあるが、定住転入については反対する人はいないのか。定住転入も住民の意見がまとまらなければできないのではないのか。近隣の人の意見は聞いているのか。

市 : 定住転入促進も地域の方の理解がないと難しいと思う。住民の方の総意をえることはどんな方策でも難しい。市としては定住転入の促進が必要だというのは変わりないが、理解を頂けない状態が続くということはある。

参加者 : CS も地域の意見をまとめるというのは苦しいと思う。土地は総意がなくても売る。CS は総意がないとできないというのは荷が重い。

市 : CS は地域の方が中心となって管理運営する公園ではない空間なので、担い手が必要であり、そういう方がいないのに市がCSをやりますと言えない。このWSでは協働公園やCSにするとまでは決められなくても検討していく場としてプラットフォームを設けていくのかどうかを決めてほしい。

(2) (仮称) 健康ふれあい体育館について

現在の大庄体育館、千代木園（老人福祉センター）、及び整備を予定している（仮称）健康ふれあい体育館について事務局より説明後、ワークショップ形式での意見交換。

（一人ずつ発言）

参加者意見①

- ・隣接する生涯学習プラザで果たせる機能（貸部屋、会議室）が複合施設に必要なのか。
- ・一体的な運営がいいのではないか。
- ・本日欠席している参加者に言われていたことだが、老人にとっては交通の便が悪い。そこを改善すれば良いのではとっていた。
- ・何階建てになるのか。単純に大庄体育館、千代木園を足した大きさより小さくなると考えればいいか。

市 : バレーボールなど高さが必要なものはプラザのホールで代替するのは難しい。プラザの有効活用を図る、重複する機能があるべきではないというのはそのとおりだと考えている。千代木園への交通手段についてだが、現在の利用者の多くは徒歩、自転車を利用している。建設予定地はバスの利用は確かに便利ではないが、現在の千代木園もバスの利用が不便なところにある。また、建設予定地は今の場所から1km程度しか離れていないので同じように徒歩、自転車で来てもらうことは可能だと考えている。新たな施設は2階建てになる予定で、現施設を単純に足した面積より小さくなる。

参加者意見②

- ・いつも言っているとおり、公園やCSにしても施設にしても独占的利用をできるだけ厳しく制限するべき。3万、4万人が利用していると書いてあるが、同じ人ばかりが繰り返し使っていることを認識するべき。
- ・各地域に整備をすればいい。それぞれの地域のなかで老人対策はできる。
- ・財政的な問題もあるだろうし、同じ人ばかりが使う施設に何億もかけるなら他のことに使うべき。

- ・体育館についても学校の体育館など代替できる十分な施設がある。
- ・この施設は不要だと考える。

市 : 現在の利用状況は、大庄体育館が約3万7千人で千代木園は約4万3千人。合計で約8万人以上の方が利用している。8万人を年間の稼働日数300日で割ると1日260人が利用している。利用登録している人の数が千代木園で1,300人、体育館で3,200人程度、計4,500人強である。こういう状況を踏まえて、我々としては整備をしていきたいと考えている。

参加者 : 4,500人が10回使えば45,000人になる。繰り返し同じ人が独占的に使うためにこれだけの施設が必要なのかということ疑問視している。もっと違うところで代替できるのではないかと考えている。場所的にも中部の人だけの施設になる。

市 : 社会保障審議会の高齢者保健専門分科会のなかで、審議会に計画づくりも審議してもらったなかで、千代木園の利用者が固定化しており、その人達の為だけの場であってはいけないという意見ももらっている。特定の方の為だけにお金を使うのではなく、民間のスポーツジムなどニーズの多様化やライフスタイルの変化に柔軟に対応できるようなソフトを考えるよう意見をもらっている。民間主催の事業や地域の人が主体となった仕組みのなかに参加してもらえよう活動の繋がり拠点としての場にしていく必要があると言われている。毎年同じ事業をするのではなく、仕組みづくりというのもこの施設を作るにあたって検討していかなくてはならないと思っている。

参加者 : 作ることはいいが、地域全体で使えるようなお金の使い方をしてほしい。1つのところにあるのではなく、裾野の広い形で。そのためにこれが必要なのかと疑問視している。

参加者意見③

- ・前の2人が言いたい意見を言ってくれている。
- ・施設をつくることは決定事項なのか。
- ・他の地区との整合性も踏まえ、施設の中身も含めて決定事項で変えられないという認識で間違いないか。

市 : 我々としてはこの施設を建設していきたいと考えている。建設時期や場所はまだ決まっていないので、意見聴取するためこういう形で説明させてもらっている。他の地区との整合性という話があったが、6地区それぞれに体育館を整備しているが、それぞれの利用者の状況をみると、大庄体育館であれば大庄地区の9割程度の方が体育館を利用しているというデータがある。こうしたことから、地域に根差した施設であり、地域の人々の、健康増進などの機能をサポートしていくのに有効な施設だと考えている。

参加者意見④

- ・人口減少の話もあるが、高齢者ばかり増えても仕方がない。若い20代、30代の人口減少、世代間バランスが課題になっていて、大庄に若い人を増やしたいということならば、なぜ大庄に高齢者施設をつくるのか。
- ・建てたら何十年も使う。50年後に人口バランスどうなっているのだろうと考えた時に本当に今、高齢者施設がいるのかという疑問。
- ・呼び込みたい子供向けの施設、例えば図書館とか。聖トマスは大庄からはいけない。大庄地区には文化施設や若い子が勉強できるような施設がない。そういうところできてくると子育てしやすい環境だなと思える。
- ・行政しかできないもの。例えば図書館は採算合わないから民間でやらない、体育館もそうかもしれないが、スポーツジムは増えてきていて、じゃあ行政しかできないスポーツ施設ってなんだろうと考えたときにホントにこの形でいいのかというのはすごく疑問。

- ・プラザの横に作る施設としても適しているかすごく疑問。
- ・西武庫公園については子供たちが利用できる遊具があるなかに体育館があり調和がとれていると思うが、ここは公園のデザインが決まっていないので、それを踏まえてからでもいいと思う。この施設がいるのかどうかの検討をずらしてもいいのではないか。
- ・千代木園の浴室が無くなるのは一定しょうがないと思うが、災害時の防災拠点として考えた場合、シャワーだけでいいのか。常設の入浴施設はいらないと思うが、非常時に設置ができるような構造にしたほうがいいと思う。

市 : 高齢者施策の部分でいうと、団塊の世代が75歳以上になるのが2025年。5年後には要支援、要介護認定を受ける人も増えていく。我々が計画を作っているのは2040年、団塊の世代のジュニアが75歳以上になることを見据えて計画を作るように言われている。その時は今よりも3,600人の方が要支援、要介護認定を受ける現状になる。我々としてはできるだけ要支援・要介護認定を受けずに、健康に、生きがい、社会参画だとか高齢期を過ごしてもらいたい。そういったことから老朽化している千代木園を複合施設として建替えさせてほしい。

市 : 施設部会後に、改めてWSとしての意見をまとめさせてもらいたい。次回は施設部会をさせてもらいたい。

参加者: おもしろ広場はスポーツ団体が多く利用しており、その人達からも色々意見を言われるが、公園と施設を混同している人が多いので、スポーツという言葉で括らずに、施設の部会であることを強調して広報してほしい。

市 : 次回の施設部会は1月31日(日)14時から大庄南生涯学習プラザ3階ホールになる。体育館に求める機能の話がメインになる。

以 上